

2018年5月11日 九州旅客鉄道株式会社



KYUSHU RAILWAY COMPANY

I 次 I 2018年3月期 決算実績 3 II 2019年3月期 通期業績予想 11 II 中期経営計画における各事業の取り組み 17 IV 中期経営計画の進捗状況 30 Appendix 35

- ▶ 九州旅客鉄道株式会社の社長の青柳です。皆様、本日はお忙しい中、お集まりいただき、誠にありがとうございます。
- ▶ 私から、目次記載の各項目について説明します。

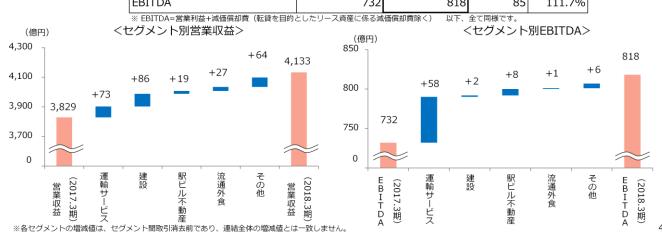


- ▶ まず、2018年3月期の決算について説明します。
- ▶ 4ページをご覧ください。

連結決算ハイライト【対前年】

- 営業収益は8期連続の増収(過去最高)
- 親会社株主に帰属する当期純利益は2期連続の増益(過去最高)
- EBITDAは5期連続の増加(過去最高)

(単位:億円) 2017.3期 実績 2018.3期 実績 対前年 営業収益 3,829 4,133 304 108.0% 営業利益 639 52 108.9% 587 経営利益 605 110.7% 670 64 親会社株主に帰属する当期純利益 447 504 56 112.6% **EBITDA** 732 818 85 111.7%



- ▶ 連結決算の営業収益は、「平成28年熊本地震」の反動等による鉄道旅客運輸収入の増やキャタピラー九州の連結子会社化による収益の増等により対前年304億円の増収となりました。
- ▶ 親会社株主に帰属する当期純利益は、鉄道旅客運輸収入の増のほか、「平成29年九州北部 豪雨」及び「台風18号」に係る特別損失を計上したものの、「平成28年熊本地震」等に 係る特別損失の減等により、対前年56億円の増益となりました。
- ▶ また、EBITDAは、鉄道旅客運輸収入の増等により、対前年85億円増加しました。
- ▶ 詳細については、5ページをご参照ください。
- ▶ 次に、セグメント別の実績について説明します。
- ▶ 6ページをご覧ください。

連結損益計算書



	2017年3月期	2018年3月期	対前		主な増減要因
	実績	実績	増減	比率(%)	土は相域女囚
営業収益	3,829	4,133	304	108.0%	鉄道旅客運輸収入 + 46 キャタピラー九州連結子会社化 + 73
営業費用	3,241	3,494	252	107.8%	減価償却費(JR九州)+26 租稅公課+15
営業利益	587	639	52	108.9%	-
営業外損益	18	30	12	169.1%	投資有価証券運用益+8
経常利益	605	670	64	110.7%	-
特別損益	△ 49	△ 22	27	-	熊本地震等に伴う災害経費の減+90 九州北部豪雨及び台風18号に伴う災害経費の増△38 金銭の信託売却益の減△30
親会社株主に帰属する 当期純利益	447	504	56	112.6%	-
EBITDA	732	818	85	111.7%	鉄道旅客運輸収入+46

セグメント情報【サマリー】

(単位:億円)

	2017年3月期	2018年3月期	対育	
	実績	実績	増減	比率(%)
営業収益	3,829	4,133	304	108.0%
運輸サービス	1,764	1,837	73	104.2%
建設	793	880	86	110.9%
駅ビル・不動産	674	694	19	102.9%
(うち不動産賃貸)	463	490	26	105.8%
流通・外食	1,004	1,031	27	102.7%
その他	609	674	64	110.6%
営業利益	587	639	52	108.9%
運輸サービス	257	292	34	113.6%
建設	59	62	3	105.4%
駅ビル・不動産	226	232	5	102.4%
(うち不動産賃貸)	197	206	9	104.6%
流通・外食	34	36	1	105.0%
その他	25	24	△ 1	94.8%
EBITDA	732	818	85	111.7%
運輸サービス	285	343	58	120.5%
建設	67	70	2	104.4%
駅ビル・不動産	311	320	8	102.9%
(うち不動産賃貸)	282	294	12	104.4%
流通・外食	51	53	1	102.8%
その他	33	39	6	118.3%

- ※各セグメントの増減値は、セグメント間取引消去前、以下、全て同様です
- ▶ 主なセグメントについて、説明します。
- ▶ 運輸サービスセグメントについては、「平成28年熊本地震」の反動等による鉄道旅客運輸収入の増加により、増収・増益となりました。
- ▶ 駅ビル・不動産セグメントについては、不動産賃貸事業収入の堅調な伸びに支えられ、増収・増益となりました。
- ▶ その他セグメントについては、キャタピラー九州の連結子会社化があったものの、JR九州ホテルブラッサム那覇の開業経費等により増収・減益となりました。
- ▶ 続きまして、単体決算について説明します。
- ▶ 8ページをご覧ください。

•

財政およびキャッシュ・フローの状況(連結)

(単位:億円)

連結財政状況	2017年3月期 期末	2018年3月期 期末	増減
資産	6,766	7,495	729
流動資産	1,986	2,067	81
固定資産	4,780	5,428	647
負債	3,282	3,663	381
流動負債	1,349	1,647	297
固定負債	1,932	2,016	83
純資産	3,484	3,832	347
自己資本比率	50.7%	50.3%	△0.4%
1株あたり純資産	2,144.00	2,357.27	213.28

(単位:億円)

キャッシュフロー計算書	2017年3月期 実績	2018年3月期 実績	増減
営業活動によるキャッシュフロー	285	876	591
投資活動によるキャッシュフロー	△ 183	△ 683	△ 500
フリーキャッシュフロー	102	193	90
財務活動によるキャッシュフロー	△ 6	△ 91	△ 85
現金及び現金同等物の増減	95	101	5
現金及び現金同等物の期末残高	542	643	101

単体損益計算書



	2017年3月期	2018年3月期	対育	前年	主な増減要因
	実績	実績	増減	比率(%)	工は相属安囚
営業収益	2,122	2,197	75	103.5%	不動産賃貸収入+16
うち 鉄道旅客運輸収入	1,464	1,511	46	103.2%	熊本地震の反動等+46
営業費用	1,687	1,729	42	102.5%	-
人件費	531	513	△ 17	96.7%	社員数の減等
物件費	1,025	1,043	17	101.8%	-
動力費	80	88	8	110.1%	-
修繕費	378	363	△ 14	96.2%	-
その他	566	590	24	104.3%	-
租税公課	60	75	15	125.9%	固定資産税の増等
減価償却費	70	96	26	137.3%	-
営業利益	434	467	32	107.5%	-
営業外損益	40	55	14	136.7%	-
経常利益	475	522	47	110.0%	-
					熊本地震等に伴う災害経費の減+92 九州北部豪雨及び台風18号に伴う災害経費の増△40
特別損益	△ 42	△ 23	19	-	金銭の信託売却益の減△30
当期純利益	376	416	40	110.7%	-

- ▶ 営業収益は、「平成28年熊本地震」の反動による鉄道旅客運輸収入の増や昨年9月に開業した 六本松421や賃貸マンションの増等により対前年75億円の増収となりました。
- ▶ 営業費用は固定資産税や減価償却費の増等により、対前年で42億円の増となりました。
- ▶ その結果、営業利益は対前年32億円の増益となりました。
- ▶ 特別損益については、「平成29年九州北部豪雨」及び「台風18号」に係る特別損失を計上しているものの、「平成28年熊本地震」に係る特別損失や金銭の信託売却益の減により対前年19億円の改善となりました。
- ▶ 以上の結果、当期純利益は対前年40億円の増益となりました。
- ▶ 続きまして、鉄道旅客運輸収入および輸送量の実績について説明します。
- ▶ 10ページをご覧ください。

単体損益計算書【再掲】



(単位:億円)

		2017年3月期	2018年3月期	対育	前年
		実績	実績	増減	比率(%)
鉄	営業収益	1,649	1,713	63	103.8%
道事	営業費用	1,398	1,430	31	102.3%
業	営業利益	250	282	31	112.5%
関	営業収益	472	484	11	102.5%
連事	営業費用	288	299	10	103.7%
業	営業利益	184	185	1	100.6%

鉄道旅客運輸収入と輸送量の実績



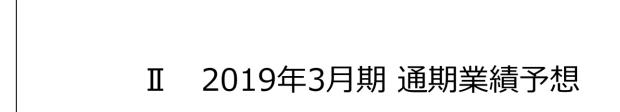
(単位:億円)

海榆川刀	運輸収入		対前年		主な増減要因
建制机人	実績	実績	増減	比率 (%)	1 土/み指/ 吸女囚
全社計	1,464	1,511	46	103.2%	-
新幹線	501	541	40	108.0%	
定期	26	26	△0	99.7%	熊本地震の反動+23
定期外	474	514	40	108.5%	
在来線	963	970	6	100.7%	
定期	294	296	1	100.6%	熊本地震の反動+11
定期外	668	673	4	100.7%	

(単位:百万人キロ)

				(羊位・ロバスキロ)
輸送人キロ	2017年3月期	2018年3月期	対育	前年
制込八十日	実績	実績	増減	比率(%)
全社計	9,191	9,336	145	101.6%
新幹線	1,852	2,004	152	108.2%
定期	196	195	△ 1	99.4%
定期外	1,655	1,809	153	109.3%
在来線	7,339	7,331	△ 7	99.9%
定期	4,018	4,011	△ 6	99.8%
定期外	3,320	3,319	△0	99.9%

- ▶ 鉄道旅客運輸収入の実績について、説明します。
- ▶ 新幹線については、「平成28年熊本地震」の反動に加え、ご利用状況も堅調に推移したことで対前年40億円の増収となりました。
- ▶ 在来線については、「平成28年熊本地震」の反動はあったものの、「平成29年九州北部豪雨」及び「台風18号」の2つの自然災害の影響により対前年6億円の増収となりました。
- ▶ 続きまして、2019年3月期の通期業績予想について説明します。
- ▶ 12ページをご覧ください。



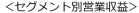
連結業績予想ハイライト【対前年】



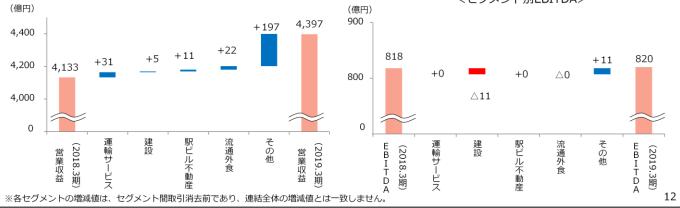
- 営業収益は増収
- 親会社株主に帰属する当期純利益は減益
- EBITDAは増加

(単位:億円)

	2018.3期 実績	2019.3期 予想	対前	前年
営業収益	4,133	4,397	263	106.4%
営業利益	639	607	△ 32	94.9%
経常利益	670	626	△ 44	93.4%
親会社株主に帰属する当期純利益	504	475	△ 29	94.2%
EBITDA	818	820	1	100.2%



<セグメント別EBITDA>



- ▶ 連結業績予想の営業収益は、「平成29年九州北部豪雨」及び「台風18号」の自然災害の反動等による鉄道運輸収入の増やキャタピラー九州の連結子会社化等により増収を見込んでいます。
- ▶ 親会社株主に帰属する当期純利益は、鉄道事業における減価償却費の増や建設セグメントの利益率の低下等により減益を見込んでいます。
- ➤ EBITDAについては、建設セグメントが減益となるものの、キャタピラー九州の連結子会社 化等により前年を上回ると見込んでいます。
- ▶ 次に、セグメント別の業績予想について説明します。
- ▶ 14ページをご覧ください。

連結業績予想



(単位:億円)

	2018年3月期	2019年3月期	対前年	
	実績	予想	増減	比率(%)
営業収益	4,133	4,397	263	106.4%
営業利益	639	607	△ 32	94.9%
経常利益	670	626	△ 44	93.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	504	475	△ 29	94.2%
1株当たり当期純利益(円)	315.07	296.88	△ 18.19	94.2%
EBITDA	818	820	1	100.2%

連結業績予想【セグメント別】



(単位:億円)

	2018年3月期	2019年3月期	対育	前年
	実績	予想	増減	比率 (%)
営業収益	4,133	4,397	263	106.4%
運輸サービス	1,837	1,869	31	101.7%
建設	880	886	5	100.7%
駅ビル・不動産	694	706	11	101.7%
流通・外食	1,031	1,054	22	102.2%
その他	674	872	197	129.3%
営業利益	639	607	△ 32	94.9%
運輸サービス	292	275	△ 17	94.1%
建設	62	51	△ 11	81.3%
駅ビル・不動産	232	226	△ 6	97.4%
流通・外食	36	36	△0	98.6%
その他	24	27	2	112.0%
EBITDA	818	820	1	100.2%
運輸サービス	343	344	0	100.0%
建設	70	59	△ 11	83.4%
駅ビル・不動産	320	321	0	100.2%
流通・外食	53	53	△0	99.3%
その他	39	51	11	128.8%

- ▶ 主なセグメントについて説明します。
- ▶ 運輸サービスセグメントについては、単体業績予想の中で説明します。
- ▶ 建設セグメントについては、競争環境の激化による利益率の低下により減益となる見込みです。
- ▶ その他セグメントについては、キャタピラー九州の連結子会社化等により増収・増益となる 見込みです。
- ▶ 続きまして、単体業績予想について説明します。
- ▶ 15ページをご覧ください。

単体業績予想



	2018年3月期	2019年3月期	対育	
	実績	予想	増減	比率(%)
営業収益	2,197	2,228	30	101.4%
(うち鉄道旅客運輸運輸収入)	1,511	1,515	3	100.2%
営業費用	1,729	1,780	50	102.9%
人件費	513	498	△ 15	96.9%
物件費	1,043	1,080	36	103.5%
動力費	88	90	1	101.5%
修繕費	363	389	25	106.9%
その他	590	601	10	101.7%
租税公課	75	82	6	108.1%
減価償却費	96	120	23	123.8%
営業利益	467	448	△ 19	95.8%
営業外損益	55	55	△0	99.6%
経常利益	522	503	△ 19	96.2%
特別損益	△ 23	-	23	-
当期純利益	416	417	0	100.1%

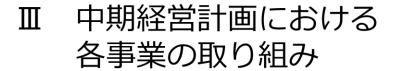
- ▶ 営業収益は、鉄道旅客運輸収入の増等により増収を見込んでいます。
- ▶ 営業費用は、人件費の減少があるものの、高架事業の補償金工事等による修繕費の増や減価 償却費の増等により増加を見込んでいます。
- ▶ その結果、営業利益は対前年19億円の減益を見込んでおりますが、災害損失に係る特別損失の減等により、当期純利益については、増益を見込んでいます。
- ▶ 以上で、決算及び業績予想についての説明を終わります。
- ▶ 続きまして、18ページをご覧ください。

単体業績予想【再掲】



(単位:億円)

		2018年3月期	2019年3月期	対前年	
		実績	予想	増減	比率(%)
鉄	営業収益	1,713	1,740	26	101.6%
道事	営業費用	1,430	1,475	44	103.1%
業	営業利益	282	265	△ 17	93.9%
関	営業収益	484	488	3	100.8%
連事	営業費用	299	305	5	102.0%
業	営業利益	185	183	△ 2	98.8%



中期経営計画 2016-2018の位置づけ



やさしくて力持ちの"総合的なまちづくり企業グループ"を目指す

- 強靭な鉄道づくりやさまざまな事業によるまちづくりを積極的に推進し、 九州における事業基盤をより強固なものとする。
- 今後の九州の元気づくりの核となる熊本駅や長崎駅の周辺開発に向けた 準備を着実に進める。
- 日本、アジアの元気づくりに本格的に挑戦することを検討する。

つくる2016

(2012-2016)

株式上場の実現

上場会社に相応しい経営基盤を構築 するとともに、上場のための諸条件の 整備を図る

> <2015年度 連結営業収益> 3,779億円

中期経営計画 2016-2018

総合的なまちづくり 企業グループ

地域の発展に貢献する長期持続的な 事業活動を可能とする強固な経営基盤 づくりをさらに加速させる

<2018年度 連結営業収益> 4,000億円

将来

- ●九州新幹線西九州ルート開業
- ●熊本駅や長崎駅の周辺開発
- マチナカや都市部以外の まちづくりへのさらなる参画
- ●九州外エリアでの事業確立

<10年後に目指す連結営業収益> 5.000億円

18

▶ 2019年3月期は中期経営計画の最終年度にあたりますが、これから各事業の取り組みについて説明します。

まちづくりを通じた事業間のシナジーの創出



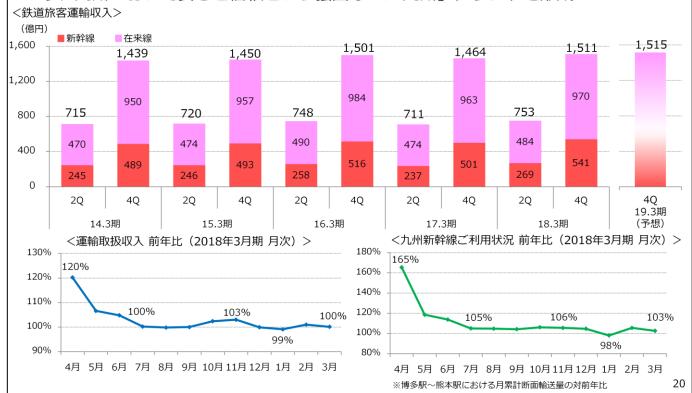
- 鉄道事業により構築された「安心と信頼」「集客力」を活かした多角的な事業展開
- まちづくりが鉄道事業における乗車人員及び近距離輸送の増加に貢献



- ▶ 当社が展開するそれぞれの事業は、鉄道事業により構築された「安心と信頼」、「集客力」を根幹とし、駅を中心とするまちづくりの推進により、事業間の相乗効果を創出しています。
- ▶ 当社のまちづくりについて、福岡市を例に挙げると、鉄道を軸とした駅ビル・オフィス・マンション・ホテル等の一体的開発が地域の人の流れを活性化し、鉄道事業にも好影響を与えています。
- ▶ 続きまして、鉄道事業の取り組みについて説明します。
- ▶ 次のページをご覧ください。

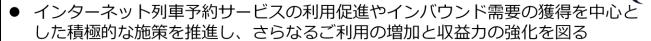
すべての事業の根幹である強靭な鉄道事業

- 九州全域を結ぶ重要な交通手段としての地位を確立し、鉄道旅客運輸収入は安定的に推移
- これまで安全で安定した鉄道事業を運営し、地域との信頼関係を構築したことにより、九州において安心と信頼という強固な「JR九州」ブランドを形成



- ▶ 当社グループの基幹事業である鉄道事業は、九州全域を結ぶ重要な交通手段として鉄道旅客 運輸収入は安定的に推移しています。
- ▶ 2018年3月期については、「平成29年九州北部豪雨」および「台風18号」の自然災害があったものの、「平成28年熊本地震」の反動および各種増収施策の取り組みにより、過去最高の鉄道旅客運輸収入となりました。
- ▶ 次のページをご覧ください。

鉄道事業の取り組み ~収益力の強化~



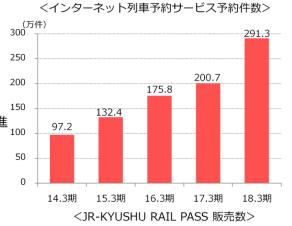
<インターネット戦略>

- ✓ インターネット予約利用へのシフトを加速化
 - ・2017年5月 コンビニエンスストア等での決済を導入 ⇒利便性を高め、ネット予約の利用促進
 - ・2017年7月 JR九州のポイント「JRキューポ」スタート ⇒ポイント統合やキャンペーン実施により、 ポイントの魅力を高め、ネット予約の利用促進
- ✓ イールドマネジメントの促進による収益性向上

<インバウンド需要の取り込み>

- ✓ JR-KYUSHU RAIL PASSの販売促進
 - ・海外旅行代理店、航空会社との連携
- ✓ ネット予約導入による利便性向上
 - ・レールパス専用予約サイト「JR-KYUSHU RAIL PASS Online Booking」スタート
 ⇒レールパス購入および指定席事前予約サービスを提供
 <JR-KYUSHU RAIL PASS 実績>

	18.3期	対前年	対前々年
枚数(枚)	229,605	101.9%	93.1%
収入(百万円)	2,216	100.5%	94.2%





- ▶ 当社では、イールドマネジメントの一環として、「インターネット列車予約サービス」の利用促進に取り組んでおり、コンビニエンスストアにおける決済やポイント統合などを通じて利便性や魅力を高めています。
- ▶ また、インバウンド需要を取り込むべく、外国人観光客専用の九州内乗り放題商品である「JR九州レールパス」の販売促進に向けて、海外旅行代理店や航空会社との連携を進めています。
- ▶ さらに、専用予約サイトにおいてレールパスの事前購入および指定席事前予約サービスを提供するなど多様化するニーズに対応した増収施策を推進しています。
- ▶ 次のページをご覧ください。

鉄道事業の取り組み ~効率的な事業運営の追求~



変化し続ける経営環境や多様化するお客さまの二ーズに柔軟に対応するために、 技術革新と効率的な事業運営を追求

<次世代の鉄道車両の開発>

✓ JR九州の今後を担う最新技術を駆使した 近郊型タイプ車両の開発

【JR九州No.1の省エネ車両】

- ■821系近郊型交流電車
- ・最新技術のフルSiCを搭載し、消費電力量を低減
- ・主変換装置 (CI) や補助電源装置 (SIV) の冗長性 により安全・安定輸送を確保

【JR九州初のシステム搭載車両】

- ■YC1系直電池搭載型ディーゼルエレクトリック車両 (ハイブリッド車両)
- ・JR九州初の蓄電池のエネルギーを有効活用した省エネ型 最新技術のディーゼルエレクトリック車両
- ・蓄電池のアシストによる効率的な走行性能を実現



<効率的な業務運営体制の追求>

✓ 「Smart Support Station」の拡大

【概要】

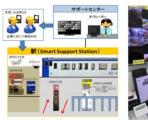
- ・お客さまの利用機会にあった適切なサービスの提供
- ・各駅にカメラ、インターフォン等を設置し、サポートセンターのオペレーターが遠隔で安全を見守り、 またインターフォンを通じてお客さまへご案内を するサービス

【導入時期】

・2015年3月 西戸崎駅〜宇美駅間

(香椎駅、長者原駅を除く14駅)

- ・2017年3月 若松駅〜新入駅間(折尾駅を除く11駅)
- ·2018年3月 大分地区(3駅)





- ▶ 当社では、鉄道事業において、変化し続ける経営環境や多様化するお客さまのニーズに柔軟に対応するために、技術革新と効率的な事業運営を推進しています。
- ➤ ここでは主な取り組みとして、「次世代の鉄道車両の開発」および「Smart Support Station」について紹介しています。
- ▶ JR九州の今後を担う最新技術を駆使した近郊型タイプの車両の開発を行います。これらの車両が当社における今後のスタンダードモデルとなる車両となり、将来のコスト削減に寄与するものと考えています。
- ▶ 今後も、お客さまの「安全」と「サービス」を維持向上しながら、技術革新に挑戦し、効率的な事業運営に努めていきます。
- 続きまして、2018年3月期に発生した自然災害とその業績への影響等について説明します。
- ▶ 次のページをご覧ください。

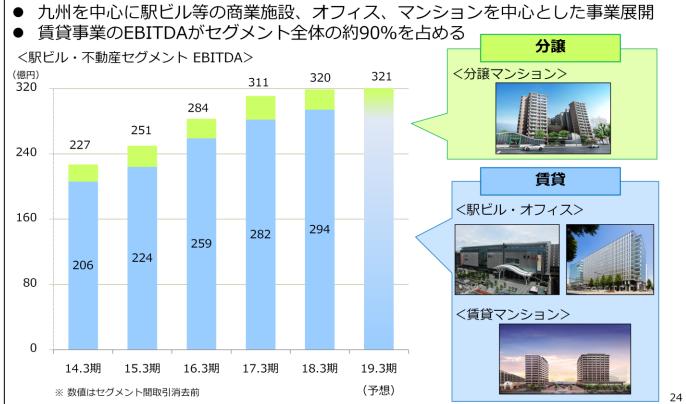
自然災害からの復旧状況(九州北部豪雨・台風18号)



- ▶ 昨年7月の九州北部豪雨により、久大本線と日田彦山線を中心に、橋りょうの流失や線路 流出等の被害が発生しました。
- ▶ また、昨年9月に九州へ上陸した台風18号により、日豊本線及び豊肥本線の鉄道施設に被害が発生しました。
- ▶ 復旧状況ですが、豊肥本線及び日豊本線については、それぞれ昨年10月、12月に運転を 再開しました。久大本線については、今年7月14日の運転再開を目指して復旧を進めてい ます。
- ▶ これらの自然災害による特別損失として合計で約38億円を計上しています。
- ▶ 次のページをご覧ください。

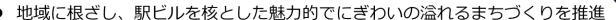
成長と進化を牽引する駅ビル・不動産事業

- +
- 賃貸と分譲の二つの事業で構成されており、連結EBITDAの約40%を占める重要 な事業



- ▶ 当社の成長と進化を牽引する駅ビル・不動産事業は、賃貸と分譲の二つの事業で構成されており、連結EBITDAの約40%を占める重要な事業です。
- ▶ 賃貸事業については、駅ビル等の商業施設やオフィスビル、賃貸マンション等で構成されており、賃貸事業のEBITDAは駅ビル・不動産セグメントのEBITDAの約90%を占めています。
- ▶ 分譲事業については、分譲マンション事業を九州各地で展開しており、安定した収益を上げています。
- ▶ 2019年3月期の通期業績予想では、安定した賃貸事業をベースに、前年を上回るEBITDAを見込んでいます。
- ▶ 次のページをご覧ください。

駅ビル事業の取り組み



● 鉄道事業との相乗効果を最大化し、駅と駅ビルの価値向上を目指す



<当社の駅ビルの強み>

商圏 調査

1

- 大きな商圏とアクセス利便性 ・ 鉄道ネットワークによるアクセス利便性
- 駅と直結して、ワンストップ・ショッピングを 提供

エリアごとの明確なターゲティング

ターゲ ティン グ

プレミアム層、若年層等エリアごとにターゲットを明確にし、其々のターゲットに最適なコンテンツを提供

強いテナント誘致力

テナン ト誘致

- 自前でのリーシングによりノウハウを蓄積
- セレクトショップや九州初出店の店舗を一施設 に誘致し、他にない利便性を提供

テナント入替等による集客向上ノウハウ

テナン ト管理 テナントの現状を把握し、集客力向上のために テナント入替も実施

<主要駅ビルのテナント売上高> (億円) 1,958 1,877 1,844 2,000 1,489 1,545 1,500 1,000 1,130 500 1,035 1,061 983 941 14.3期 15.3期 16.3期 17.3期 18.3期 ■ JR博多シティ ■ その他主要駅ビル ※ その他主要駅ビル:アミュプラザ小倉、アミュプラザ長崎、アミュプラザ鹿児島、JRおおいたシティ



◆熊本駅ビル 計画概要

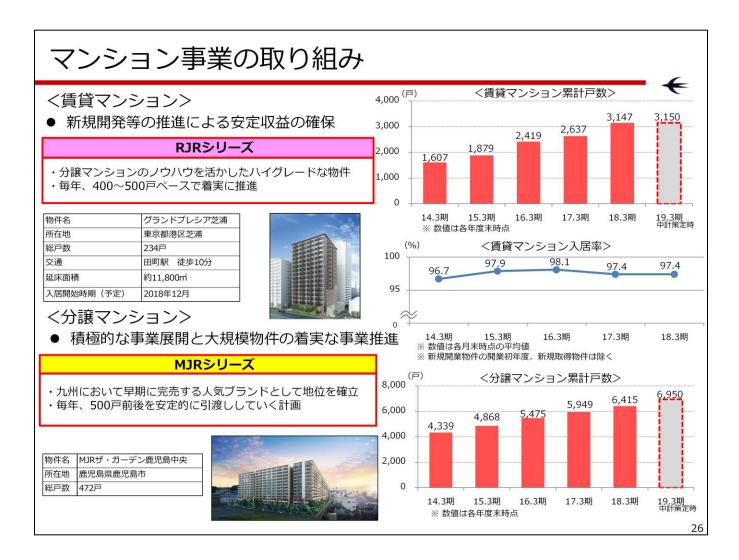
・敷地面積: 19,000㎡ ・延床面積: 107,000㎡ ・商業店舗面積: 37,000㎡

・階数: 地下1階~地上12階 ・用途: 商業、シネコン ホテル等

・スケジュール(予定): 2019年春頃 駅ビル工事着工 2021年春頃 駅ビル開業

熊本駅ビル開発

- ▶ 駅ビル事業は、九州の主要駅を中心に展開しており、駅ビルを核とした魅力的でにぎわいの 溢れるまちづくりを行い、当社グループの価値向上や地域経済の活性化に努めています。
- ▶ 会社発足以降、自社で培った運営ノウハウ、マーケティング戦略を活用して高収益を実現し 、成長を続けています。
- ▶ 今後も、これらの取り組みを通じ収益力を維持向上させつつ、地域のにぎわいづくりに貢献していきます。
- 次のページをご覧ください。



- ➤ マンション事業について説明します。
- ▶ 賃貸マンションは、戸数、売上ともに着実に伸ばしてきており、入居率も高い水準で推移しています。
- ▶ 今後も都市圏を中心に積極的に新規開発を推進し、安定した収益を確保していきます。
- ▶ 分譲マンションについては、九州において早期に完売する人気ブランドとしての地位を確立しており、今後も積極的に新規開発を推進し、シェアを拡大していきます。
- 次のページをご覧ください。

その他の事業の取り組み

<ホテル事業>

● 宿泊主体型ホテル開発によるチェーン拡大



J.D.パワー 2017年日本ホテル宿泊客満足度調査 (1泊9,000~15,000円未満部門)でNo.1を受賞



JR九州ホテル ブラッサム新宿が 『ミシュランガイド東京2018』 ホテル部門で "2パビリオン"

ウム 11日か 中計策定時 「京2018」 ※数値はサービスアパートメント事業を含む (なお、サービスアパートメント事業は駅ビル・不動産セグメント ごリオン" (に属する)

> (室) 600 —

<シルバー事業>

- 揺るぎない安全・安心の追求を、シニアの住まいづくりにも
- JR九州グループの総合力が活かされたシニアマンション「SJR」





 所在地
 福岡市中央区

 開業日
 2017年9月

 113室
 (一般居室92室)

 (介護居室21室)

 延床面積
 約9,643㎡

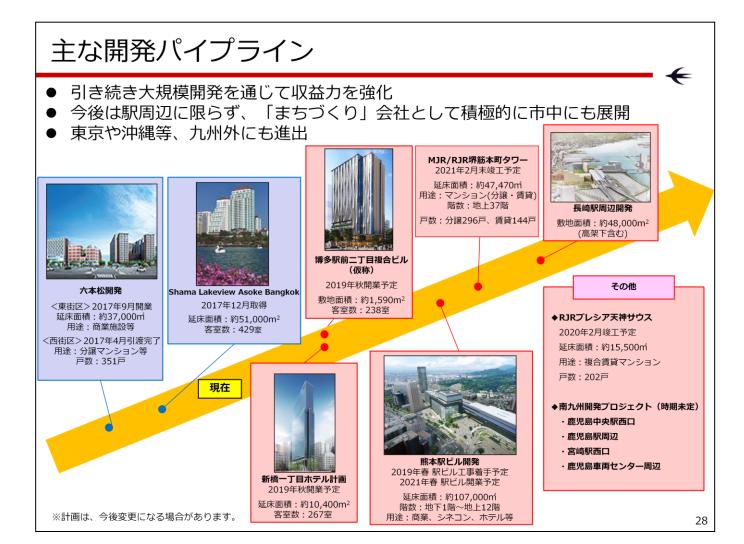


27

<SJR居室数>

<SJR六本松>

- ▶ その他の事業の取り組みとして、ホテル事業及びシルバー事業について説明します。
- ▶ ホテル事業については、昨年6月には沖縄にブラッサム那覇が開業したほか、同12月にはタイ・バンコクのサービスアパートメントを取得しました。その結果、現在の客室数は16施設の合計で3,000室を超えています。
- ▶ インバウンド需要の拡大により外国人宿泊客も大幅に増加する中、事業収入も確実に伸びています。
- ▶ シルバー事業については、「SJR」ブランドでシニアマンションを運営しています。
- ▶ 昨年9月に開業した六本松開発に合わせ、SJR六本松を開業しました。
- 事業開始以来、居室数は堅調に推移しています。
- ▶ 次のページをご覧ください。



- ▶ 今後の主な開発パイプラインは記載のとおりです。
- ▶ 九州に軸足を置きながら、それ以外の地域においても当社の強みを活かしたパイプラインが控えています。
- ▶ 現中期経営計画期間以降には、ホテルを核とした博多駅前二丁目複合ビル開発や東京・新橋でのホテル計画、さらに九州内の大型開発では熊本駅ビル開発や長崎駅周辺開発も予定しています。
- ▶ 次のページをご覧ください。

新たな事業と九州外エリアへの挑戦





- ✓ キャタピラー九州(株)を2017年10月に子会社化
- ✓ 当社グループが鉄道事業で培った「安全」と 「サービス」を軸に、鉄道以外の新たな事業領域 の拡大
- ✓ 建設、機械保守、金融等の分野で当社グループの 既存事業との連携によるシナジー



<九州外エリアでの事業展開>

✓ アジアでの事業拡大に向けて、タイにおける サービスアパートメント事業へ参入

所在地	タイ王国バンコク都
敷地面積	約5,200㎡
規模・構造	TowerA:鉄筋コンクリート造 地上32階建 TowerB:鉄筋コンクリート造 地上27階建
客室数	429室(TowerA:230戸、TowerB:199戸)
延床面積	約51,000㎡







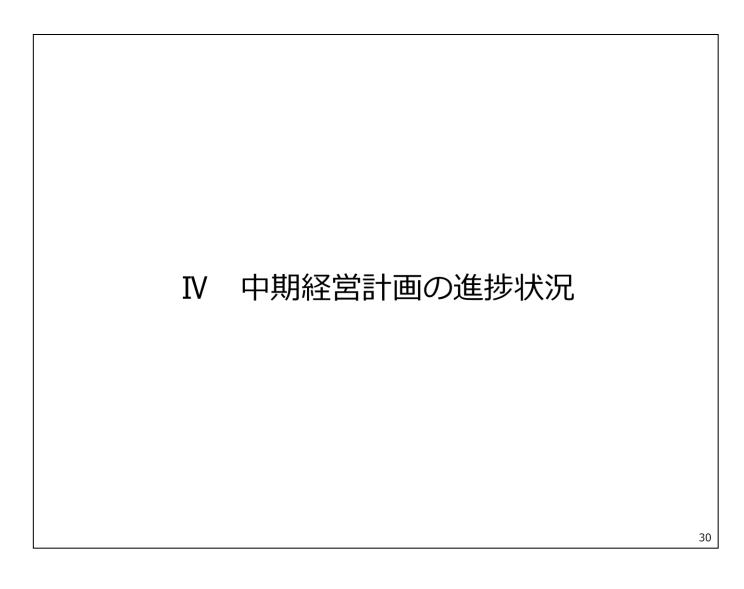
<Shama Lakeview Asoke Bangkok>

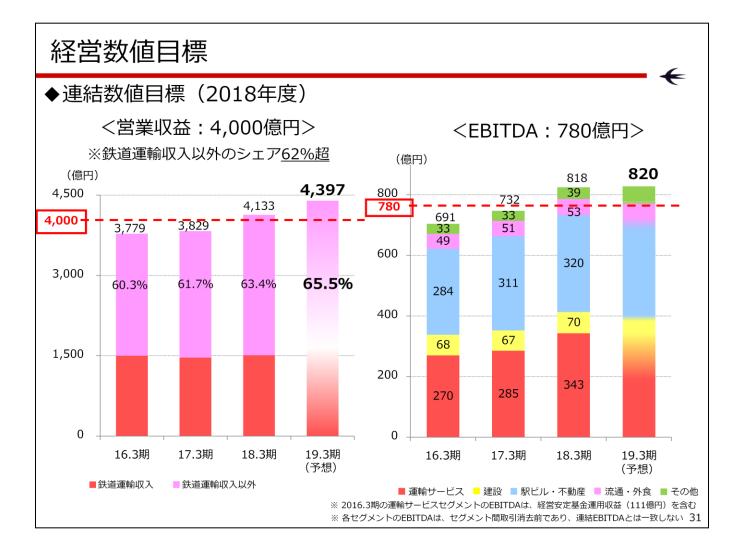
✓ ONYX社との業務提携により2018年4月から 「Shama」ブランドにて運営開始





- ▶ 新たな事業への取り組みとして、昨年10月にキャタピラー九州の株式を取得しました。当社グループが発注する工事での利用や、金融子会社を活用したレンタル事業の拡大、鉄道車両や機械設備の製造保守分野での連携強化によりシナジーの創出に取り組んでいます。
- ▶ 今後も既存事業の周辺事業や、JR九州グループの強みを活かせる分野については、積極的に M&Aを検討していきます。
- ▶ 九州外エリアでの事業展開として、アジアでの事業拡大に向けて、タイにおけるサービスアパートメント事業へ参入しました。中国、東南アジアで国際的に事業展開しているONYX社と業務提携し、今年4月から「Shama」ブランドとして運営を開始しています。
- ▶ 本件を通じて得られる海外のお客さまへのセールスなど、これまで当社になかったノウハウを 国内の各事業に還元していきます。
- ▶ 続きまして、31ページをご覧ください。





- ▶ 中期経営計画において、2019年3月期における連結営業収益4,000億円、連結 EBITDA780億円を目標としています。
- ▶ 計画2年目の2018年3月期において、営業収益およびEBITDAの数値目標を達成しました。
- ▶ 計画最終年度となる2019年3月期についても、業績予想でお示ししたように、2018年3月期を越える営業収益およびEBITDAを目指していきます。
- ▶ 次のページをご覧ください。

経営数値目標

<設備投資額「参考)>

1,900億円(2016~2018年度総額)

(主な内訳)

- 鉄道事業における 650億円 安全投資
- 成長投資

800億円

等



<中期経営計画期間の主な成長投資>

- 六本松開発
- JR九州ホテル ブラッサム那覇
- 新橋一丁目ホテル計画
- 博多駅前二丁目複合ビル(仮称)
- 賃貸マンション RJR大分駅前 II グランドプレシア芝浦





■博多駅前二丁目複合ビル(仮称) ■新橋一丁目ホテル計画

- ▶ 設備投資額について説明します。
- ▶ 3ヵ年の連結設備投資総額として1,900億円を計画しており、主な内訳は「鉄道事業にお ける安全投資 | 650億円、「成長投資 | 800億円です。
- ▶ 成長投資については、これまでの2ヵ年の実績は750億円で、3ヵ年の総額が800億円を上 回ると見込んでいます。
- 中期経営計画期間の主な成長投資件名は記載のとおりです。
- 中期経営計画の最終年度である2019年3月期は不動産賃貸事業を軸とした成長投資を計 画しており、3ヵ年の設備投資総額は中期経営計画を大きく上回る2,390億円を計画して います。
- ▶ 今後も、すべての事業の根幹である鉄道事業の基盤強化に必要な安全投資に継続的に取 り組みながら、まちづくりや地域のにぎわいづくりに資する成長投資も積極的に実施し ていきます。
- ▶ 次のページをご覧ください。

株主還元



◆配当政策

2019年3月期までの間、連結配当性向30%程度を目安に 安定的な1株当たり配当を目指す

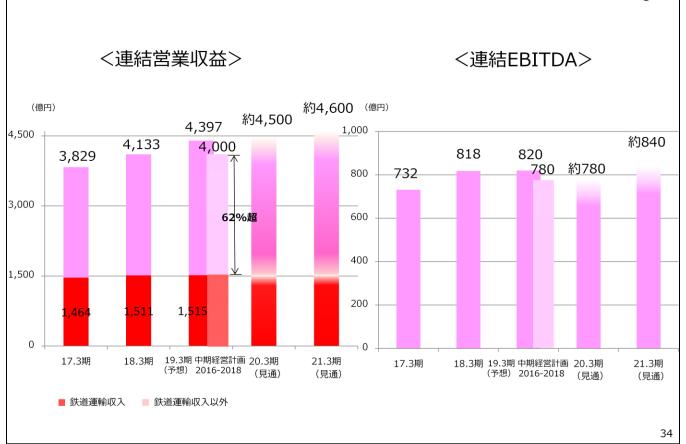
- ◆1株当たり年間配当額および配当性向
 - ・2018年3月期の年間配当額は、1株当たり83円の予定
 - ・2019年3月期の年間配当額は、1株当たり83円の予定

	1 株当たり 年間配当額	連結配当性向
2017年3月期 ※半期分	38円50銭	13.8%
2018年3月期	83円	26.3%
2010 3/ 3/43	(中間39円、期末44円)	
2019年3月期(予)	83円	28.0%

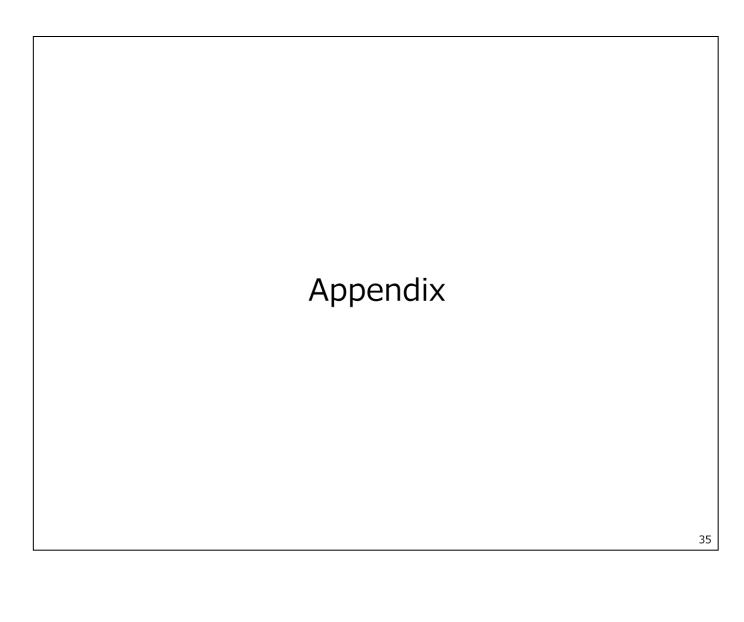
- ▶ 株主還元について説明します。
- ▶ 2019年3月期までの間は、連結配当性向30%程度を目安に、安定的な1株当たり配当を 目指すことを基本方針としています。
- ▶ 2018年3月期の期末配当は、当期の業績を勘案し、直近の配当予想から5円増額した1株あたり44円とする案を株主総会に提案させて頂く予定です。
- ▶ 2019年3月期の年間配当額は、2018年3月期と同額の1株あたり83円を予定しています。
- ▶ 次のページをご覧ください。

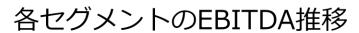
中期経営見通しについて(参考)

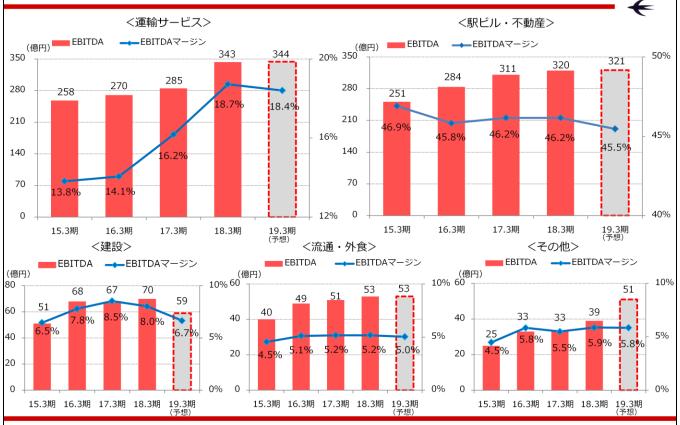




- ▶ 次期中期経営計画の数値目標等は現在検討中であり、しかるべき時期に公表したいと考えておりますが、ここで2021年3月期までの見通しについて説明します。
- ➤ 現中期経営計画で掲げた施策を実施した場合、中期経営見通しについては、2020年3月期は税制特例廃止等の影響によりEBITDAが減少するものの、2021年3月期には2018年3月期を上回る水準になる見込みです。
- ▶ 現中期経営計画において、長期持続的な事業活動を可能とする強固な経営基盤づくりを進め、株式上場も実現しました。これまで築いてきた経営基盤を活かし、更なる成長を目指すべく次期中期経営計画を検討していきたいと考えています。
- ▶ 以上で、説明を終わります。ご清聴ありがとうございました。





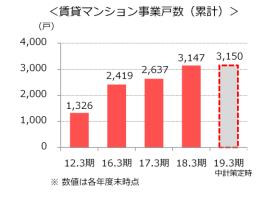


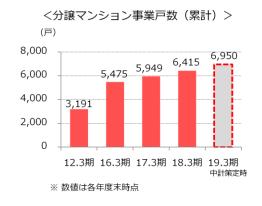
※ 16.3期以前の運輸サービスセグメントのEBITDAは、経営安定基金運用収益(15.3期:125億円、16.3期:111億円)を含む

※ 各セグメントの数値は、セグメント間取引消去前

各事業における中期経営計画の進捗状況







関連事業の取り組み

<賃貸マンション>

名称	所在地	取得・入居開始時期	戸数
東十条マンション	東京都北区	2017.6	182戸
RJRプレシア大分駅前 Ⅱ	大分市	2018.2	130戸
RJRプレシア千代県庁口駅前	福岡市博多区	2018.2	132戸
RJRプレシア西公園ベイサイド	福岡市中央区	2018.3	45戸
RJRプレシア竹下 I	福岡市博多区	2018.3	21戸
グランドプレシア芝浦	東京都港区	2019.3期	234戸
RJRプレシア郡元 II	鹿児島市	2019.3期	142戸
RJRプレシア博多駅南	福岡市博多区	2019.3期	139戸
RJRプレシア大分駅前Ⅲ	大分市	2019.3期	78戸

<分譲マンション>

名称	所在地	引渡開始時期	総戸数
MJR九大学研都市レジデンス	福岡市西区	2017.4	161戸
MJR赤坂タワー	福岡市中央区	2017.11	172戸
MJRザ・ガーデン大江	熊本市中央区	2018.3	193戸
MJR九品寺テラス	熊本市中央区	2018.8	64戸
MJRザ・ガーデン鹿児島中央	鹿児島市	I期:2018.8 Ⅱ期:2019.3	472戸
MJR大野城駅前	福岡県大野城市	2019.3	52戸
MJR桜坂ザ・レジデンス	福岡市中央区	2019.3	26戸
MJR清水町	鹿児島市	2019.3	51戸
MJR大分駅前ザ・レジデンス	大分市	2019.3	70戸



主要な保有物件の概要

-	
-	
•	

資産タイプ	名称	所在地	時期 (開業/取得)	延床面積/ 戸数/部屋数	テナント売上 2018/3期	主要テナント
商業施設 (駅ビル)	アミュプラザ小倉	北九州市小倉北区	1998/3	約48,500㎡	121億円	ユナイテッドアローズ、 フランフラン 等
	アミュプラザ長崎	長崎市尾上町	2000/9	約58,500㎡	209億円	東急ハンズ、無印良品、 ユナイテッド・シネマ 等
	アミュプラザ鹿児島	鹿児島市中央町	2004/9	約65,000㎡	264億円	東急ハンズ、ZARA、 シネマ鹿児島ミッテ10 等
	JR博多シティ	福岡市博多区	2011/3	約240,000㎡	1,130億円	阪急百貨店、東急ハンズ、 T・ジョイ博多 等
	J Rおおいたシティ	大分市要町	2015/4	約154,000㎡	233億円	東急ハンズ、TOHOシネマズ 等 2018/3/2リニューアル
商業施設 (マチナカ)	六本松421等	福岡市中央区	2017/9 ※一部10月開業	約37,000㎡	-	蔦屋書店、スターバックス、 九州大学法科大学院、福岡市科学館 SJR六本松 等
オフィス	赤坂山王センタービル	東京都千代田区	2011/3 取得	約5,000㎡	-	-
	二番町センタービル	東京都千代田区	2014/3 取得	約44,000㎡	-	-
	JRJP博多ビル	福岡市博多区	2016/4 開業	約44,000㎡	-	-
	平河町センタービル	東京都千代田区	2016/9 取得	約8,000㎡	-	-
賃貸	R J Rプレシア大分駅前 II	大分県大分市	2018/2	130戸	-	-
マンション	RJRプレシア博多	福岡市博多区	2017/2	218戸	-	-
	上記含む 計34/	棟				
ホテル	JR九州ホテル ブラッサム博多中央	福岡市博多区	2013/4	247室	-	-
	JR九州ホテル ブラッサム新宿	東京都渋谷区	2014/7	239室	-	-
	JR九州ホテル ブラッサム那覇	沖縄県那覇市	2017/6	218室	-	-
	Shama Lakeview Asoke Bangkok	タイ バンコク	2017/12取得	429室	-	2018/4より新ブランドによる運営開始
	上記含む 計16	棟				

主要な開発パイプラインの概要



名称	所在地	時期	敷地・延床面積/ 戸数/部屋数	備考(用途等)
熊本駅周辺開発	熊本市	2018年3月 高架下開業 2019年春 駅ビル着工予定 2021年春 駅ビル開業予定	敷地 約70,000㎡(高架下含む) 延床 107,000㎡(駅ビル)	高架下:商業 駅ビル:商業、シネマ、ホテル(200室)等 立体駐車場: 2,100台 住居系: MJR、RJR、SJR等
長崎駅周辺開発	長崎市	未定 ※2019年度以降 開業予定	敷地 約48,000㎡(高架下含む)	新幹線開業、在来線高架化を見据えた駅周辺開発を推進 商業、ホテル、オフィスなど複合的な開発を検討
有九州エリア開発				
鹿児島中央駅西口	鹿児島市	未定 ※2019年度以降 開業予定	敷地 約8,500㎡	商業、オフィス、住居など複合的な開発を検討
鹿児島駅周辺	鹿児島市	未定 ※2019年度以降 開業予定	敷地 約14,000㎡	-
宮崎駅西口	宮崎市	未定 ※2019年度以降 開業予定	敷地 約7,000㎡	商業、オフィス、住居など複合的な開発を検討
鹿児島車両センター周辺	鹿児島市	未定 ※2019年度以降 開業予定	敷地 約12,000㎡	-
専多駅前二丁目複合ビル(仮称)	福岡市博多区	2019年秋 開業予定	敷地 約1,590㎡	ホテル(238室)を核とした複合ビル開発
RJRプレシア天神サウス	福岡市中央区	2020年2月 竣工予定	延床 約15,000㎡	複合賃貸マンション(202戸)
MJR/RJR堺筋本町タワー	大阪市中央区	2021年2月末 竣工予定	延床 約47,470㎡	マンション(分譲:296戸・賃貸:144戸)
新橋一丁目ホテル計画	東京都港区	2019年秋 開業予定	267室 予定 延床 約10,400㎡	オフィス・ホテル複合開発、NTT都市開発㈱との共同開発 ホテル部分所有: JR九州 ホテル運営: JR九州ホテルズ㈱
				※計画は、今後変更になる場合があります。

将来の見通しに関する記述について



本資料には、JR九州グループの見通し・目標等の将来に関する記述がなされています。

これらは、本資料の作成時点において入手可能な情報、予測や作成時点における仮定に基づいた当社の判断等によって記述されたものであります。そのため、今後、国内外及び九州の経済情勢、不動産市況、各プロジェクトの進捗、法令規制の変化、その他の幅広いリスク・要因の影響を受け、実際の経営成績等が本資料に記載された内容と大きく異なる可能性があることにご留意ください。

当資料は、弊社ホームページでご覧いただけます。 JR九州ホームページ

http://www.jrkyushu.co.jp/company/ir/library/earnings/